

2013年2月26日
博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所

新大人研レポートVII 「 ”新しい大人世代“の夫婦関係」

40～60代の「夫婦すれ違い」現象 夫婦の危機も、60代定年退職後は持ち直し？

- ◆「今の相手とまた夫婦になりたい」一夫は50.2% 一方、妻は38.4%。
- ◆50代で「また夫婦になりたいくない」が男女ともに最高値。60代でやや持ち直し。
- ◆団塊男性の4割は「妻と会話する時間が増えた」。努力するも、空回りぎみ。

40～60代の意識が従来の常識から大きく変わり、いまや「絶滅!?する中高年」とでも言うべき状況が現れています。「博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所」では、人生を前向きにとらえ、若々しくありたいと考える新たな40～60代を総称して「新しい大人世代」と名づけ、彼らの志向や生活を探る様々な調査を実施しています。このたび、全国の40～60代の男女2700名に、夫婦関係に関する調査を行い、その結果をまとめましたのでご報告いたします。

◆今の相手とまた夫婦になりたい夫は50.2%、妻は38.4%。夫の片思い現象は変わらず。

「生まれ変わっても今の相手とまた夫婦になりたい」と答えた男性は50.2%に対し、女性は38.4%と大きな開きが出ています。新しい大人世代のライフスタイルは変わっても、夫婦間のすれ違いは変わらないようです。

◆50代で「また夫婦になりたいくない」がトップ。子どもの自立は夫婦の危機？

「今の相手とは一緒になりたくない」と考える割合は、男女ともに50代が最も高く、男性の16.3%、女性の28.8%が該当します。子どもが自立していくこの世代は夫婦の危機と言えそうです。この傾向は60代になると男女ともに落ち着き、ふたたび「夫婦になりたい」と考える人が増えるようです。

◆7割近くの女性が「夫にがっかりさせられたことがある」。うち4割は「謝罪してほしい」。

「配偶者にがっかりさせられたことがある」には、女性は66.4%があると回答しています。その内の約4割(39.5%)は、「がっかりさせられたことに対して、夫から謝罪してほしい」と考えており、不満や喧嘩の原因となったことに関して、夫婦間で十分な話し合いによる解決が行われていないことが伺えます。

◆団塊世代の夫は反省中？60代男性の4割「妻と会話する時間が増えた」

そのような中でも、夫、特に定年退職後の60代男性には夫婦仲を改善しようとする努力が伺えます。60代男性の45.2%が「最近、妻と会話する時間が増えた」と回答しており、団塊世代は妻と過ごす時間を増やす努力をしています。しかし、夫が努力していると自認するほど、妻は会話する時間が増えたとは思っておらず、せつかくの夫の努力もやや空回りぎみのようです。

◆相手と増やしたい時間の1位は「旅行」。夫婦二人旅が夫婦円満の秘訣！？

「配偶者との間で今後多く取りたい時間」の回答としては「旅行に行く時間」が男女ともに1位(46.5%)となっています。夫婦すれ違いを解決する鍵は、夫の努力と、二人での旅行にあると言えそうです。

新しい大人文化研究所は、「夫婦すれ違い」の解決にも取り組んでいます。(p.7)

本件に関するお問い合わせ：

博報堂 広報室
博報堂 エルダナーナレッジ開発

藤井・森
阪本

(TEL:03-6441-6161)
(TEL:03-6441-4366)

◇調査概要◇

調査主体：博報堂 エルダナーレヅ開発 新しい大人文化研究所

調査時期：2012年12月8日(土)～10日(月)

調査方法：インターネット調査

調査対象：全国の40～69歳男女 合計2700名(男性1,350名 女性1,350名)

40代(900サンプル) 1964～1973年生…新人類が中心となる層

50代(900サンプル) 1954～1963年生…ポスト団塊世代が中心となる層

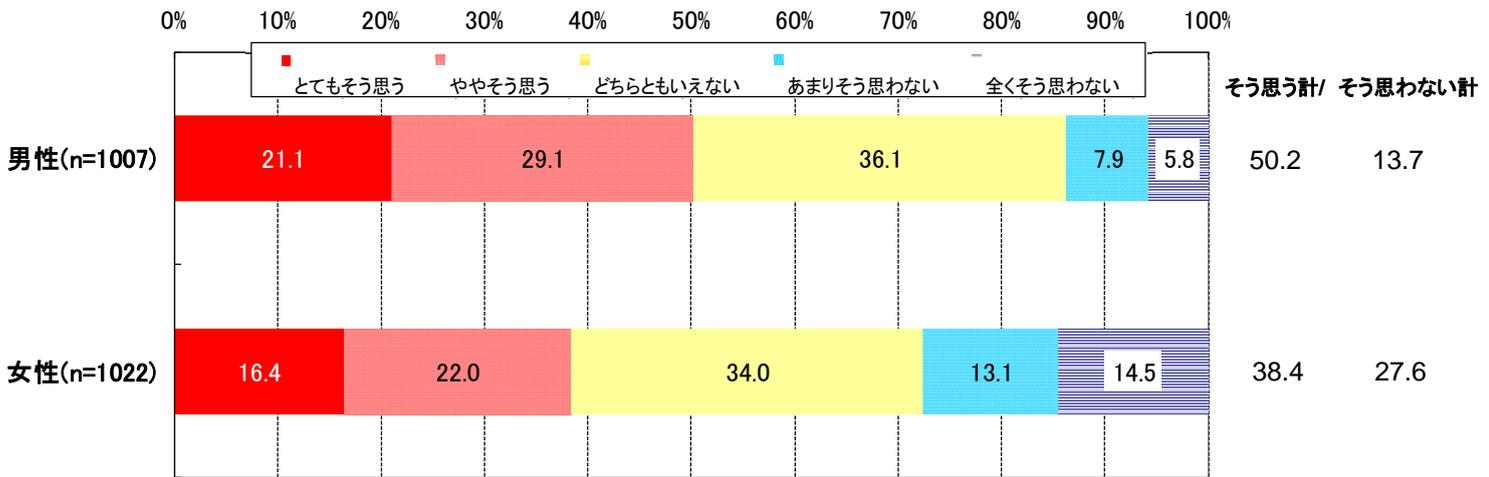
60代(900サンプル) 1944～1953年生…団塊世代が中心となる層

【調査結果】

■「今の相手とまた夫婦になりたい」一夫は50.2%、妻は38.4%。男女間に大きな開き。

現在婚姻中の男女に「生まれ変わっても今の相手とまた夫婦になりたいか」と尋ねた結果、男性では約半数の50.2%が「そう思う」と回答する一方で、女性の該当者は38.4%に留まり、男女間の夫婦生活への満足度の差が浮き彫りになりました。

Q.「生まれ変わっても今の相手とまた夫婦になりたいか」(現在婚姻中ベース)

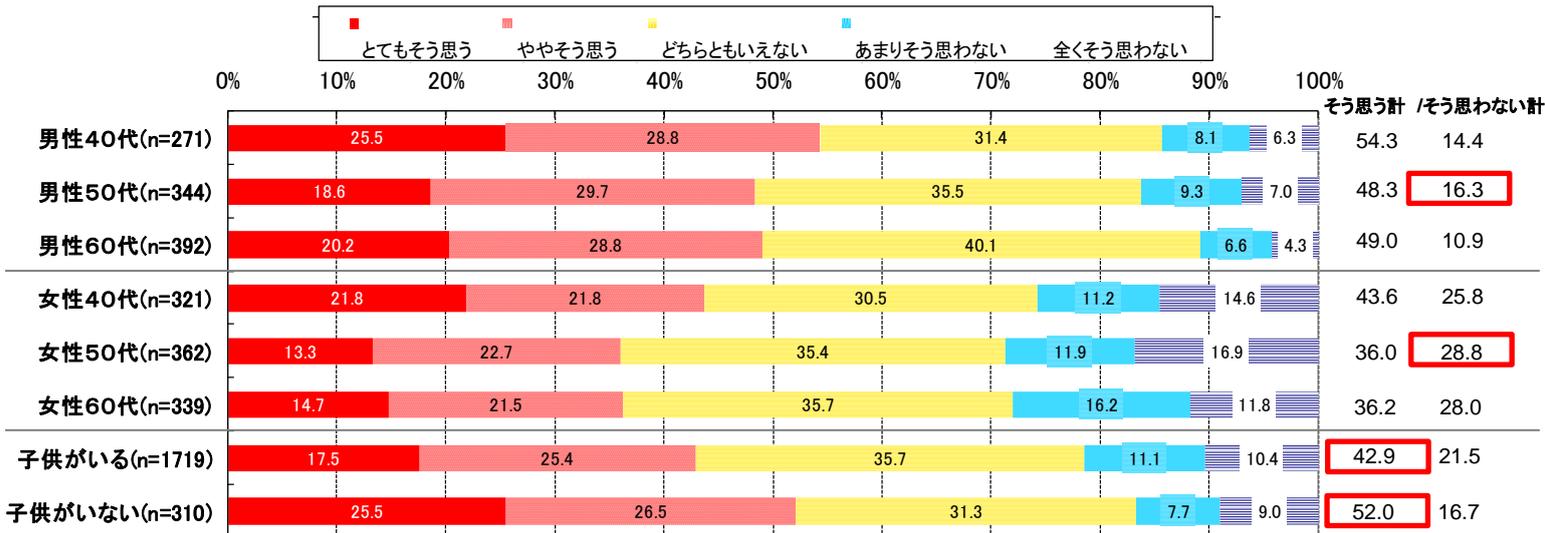


■子どもがいる方が、「また夫婦にはなりたくない」と考える傾向。50代子どもの自立は夫婦の危機？

年代別にみると、男女ともに「そう思う」と回答した人が50代で最も少なくなっており、50代女性の約3割(28.8%)は「また夫婦にはなりたくない」と答えています。50代は子どもが自立し、あらためて夫婦二人になったときに、夫の子育て協力度合いや逆に妻の子ども一辺倒だったことなどへの不満が出てしまったといえるでしょう。

また、子どもの有無別に見ると、子どもがいる夫婦の方が「また夫婦になりたい」と考える人が少ない傾向にあります。「子はかすがい」とは言いますが、子育てにまつわる考え方の差が夫婦の危機を招く場合もあると言えます。

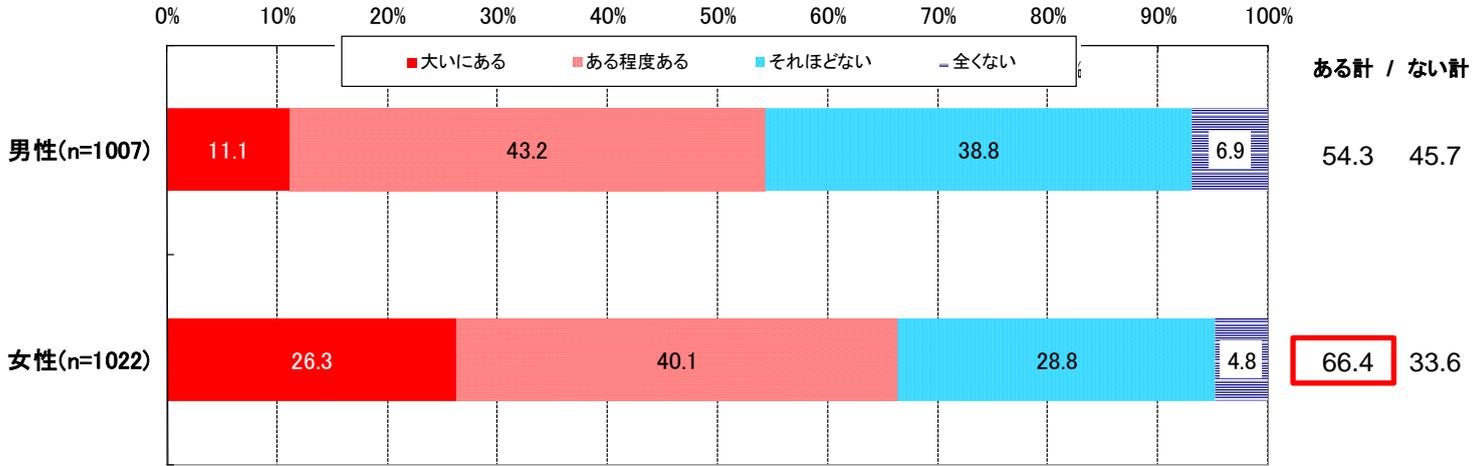
Q.「生まれ変わっても今の相手とまた夫婦になりたいか」(世代別・子どもの有無別)(現在婚姻中ベース)



■ 女性の7割弱が「配偶者ががっかりさせられたことがある」。

「配偶者ががっかりさせられたことがある」の問いに対しても、男女間のギャップが大きく見られました。男性の54.3%が「ある」と回答した一方で、女性では66.4%にのぼっています。

Q.「配偶者ががっかりさせられたことがあるか」(現在婚姻中ベース)

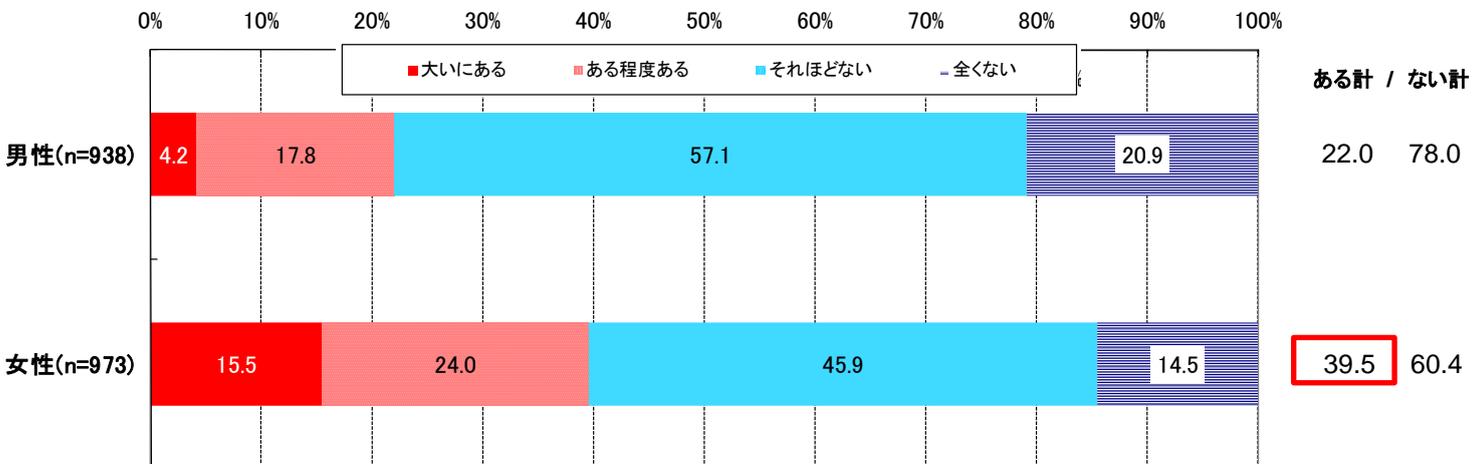


■ 「まあいいや」の夫と、「謝ってよ」の妻。

また、「がっかりさせられたことに対して、相手から謝罪してほしい気持ちはあるか」との問いに対しては、女性の約4割(39.5%)が「ある」と回答しています。これは、男性の22.0%と比較しても2倍弱の高い数値となっています。日常の小さなもめごとを、まあいいかとやりすごしてしまう夫と、謝ってほしいと不満に思い続ける妻、といった構図が浮かび上がります。

年代別にみると、男性は相手に謝罪してほしいと思う気持ちが60代で大きく減少しています。男性は定年退職後、会社が頼りの後は奥さんが頼りとなるためか相手に対し寛大になるようですが、女性はあくまで謝罪してほしいと思っているようです。

Q.「がっかりさせられたことに対して、相手から謝罪してほしい気持ちはあるか」(がっかり経験ありベース)



	大いにある	ある程度ある	それほどない	全くない	ある計
男性(n=938)	4.2	17.8	57.1	20.9	22.0
女性(n=973)	15.5	24.0	45.9	14.5	39.5
男性40代(n=250)	6.0	20.4	54.4	19.2	26.4
男性50代(n=323)	5.0	18.9	56.3	19.8	23.9
男性60代(n=365)	2.2	15.1	59.7	23.0	17.3
女性40代(n=301)	19.3	25.6	38.9	16.3	44.9
女性50代(n=348)	14.9	24.7	47.4	12.9	39.6
女性60代(n=324)	12.7	21.9	50.9	14.5	34.6

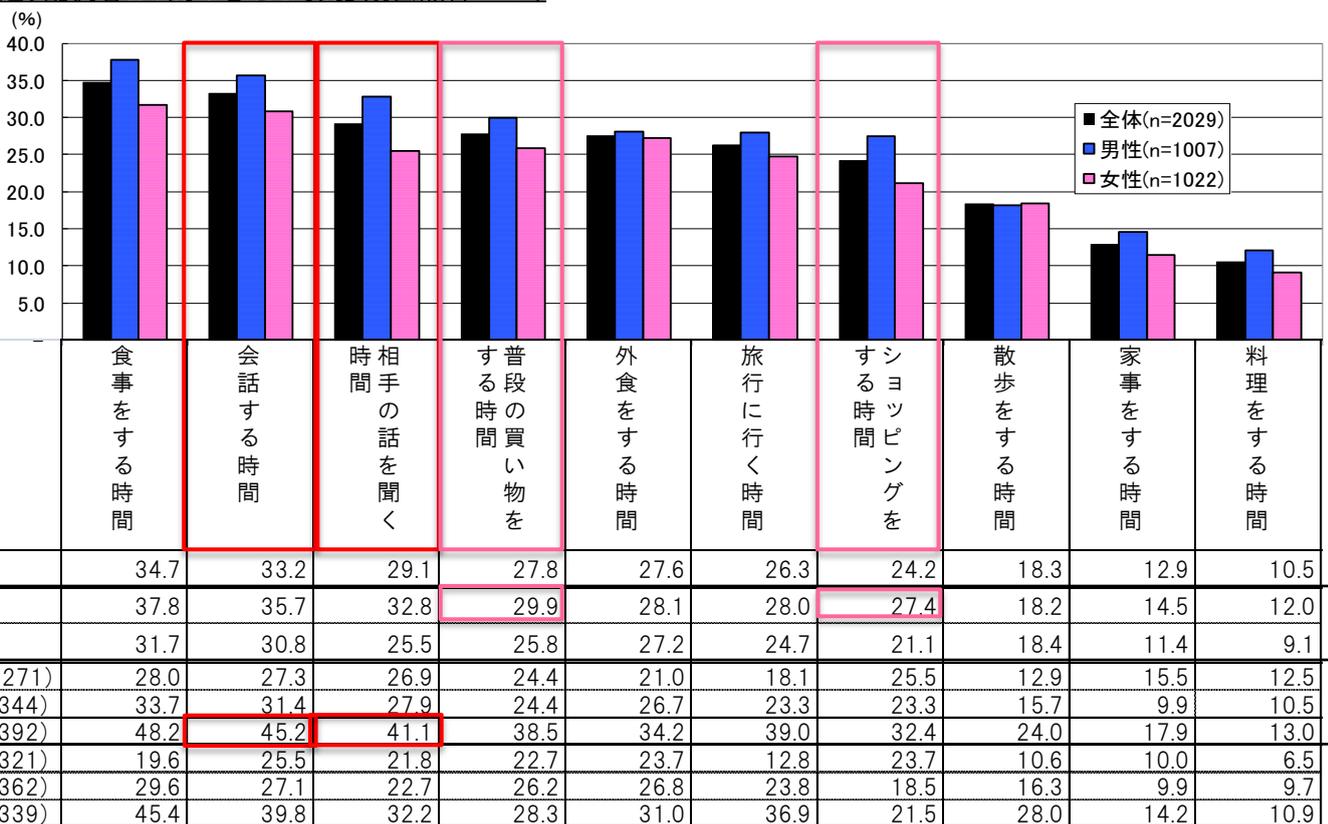
■ 妻のために努力する団塊男性。「会話」に「買い物」にと涙ぐましいが、やや空回りの傾向。

婚姻中の40～60代男女に「最近、配偶者との間で増えた時間」を尋ねたところ、ほとんどの項目で女性よりも男性のほうが数値が高くなっており、新しい大人世代の男性は、妻との時間を積極的に作ろうと努力していることが伺えます。

特に定年退職後の60代男性は「会話する時間」(45.2%)、「相手の話を聞く時間」(41.1%)を多く挙げており、引退後、「妻の話をきかなければならない」「会話も積極的にする必要あり」と考える男性の傾向が明らかになりました。

また、男性は、「普段の買い物をする時間」(29.9%)も「ショッピングをする時間」(27.4%)も高く、買い物と一緒にに行く努力をしているとの自認があるようです。しかし、妻のほうはその「会話」も「買い物」も相対的に低く、夫が努力していると思う程、妻は増えたと思っていない。せつかくの夫の努力ですが、やや空回りの傾向にあるようです。

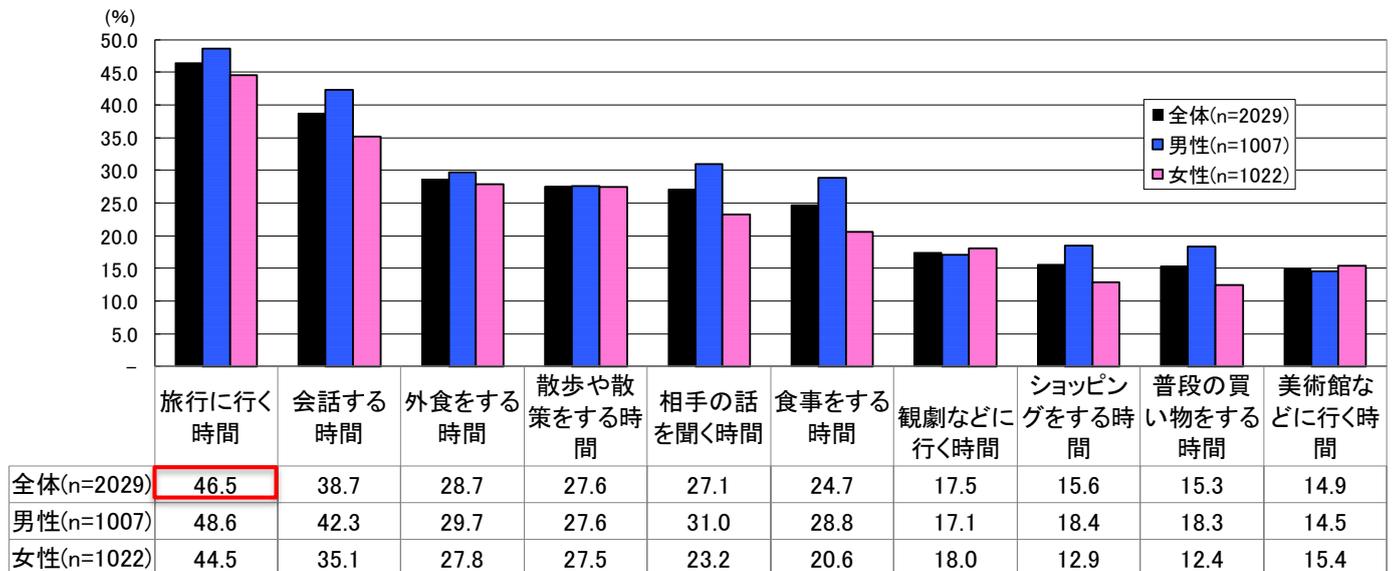
Q.「最近、配偶者との間で増えた時間」(現在婚姻中ベース)



■ 今後、配偶者との間で多くとりたい時間は「旅行」が1位。夫婦円満の鍵は二人旅行にあり。

40～60代の夫婦に、今後配偶者との間で多くとりたい時間を尋ねたところ、男女ともに1位は「旅行に行く時間」(46.5%)となりました。夫婦すれ違いの解決の鍵は、旅行にあると言えます。

Q.「今後、配偶者との間で多くとりたい時間」(現在婚姻中ベース)



「博報堂 エルダナーレッジ開発 新しい大人文化研究所」とは



当研究所は、「博報堂エルダナービジネス推進室」(2000年設立)を前身とし、2011年2月に設立された、40～60代生活者の意識・行動を研究する専門組織です。従来の中高年層の間で一般的であった意識やライフスタイルとは異なる、新しい40～60代が誕生しています。当研究所では、年を重ねるごとに前向きな意識を持つ、この新しい中高年生活者を「新しい大人」と名づけ、少子高齢化社会にプラスのインパクトを与える重要な存在として調査・研究および企業向けコンサルティング業務を行っています。

博報堂 エルダナーナレッジ開発 新しい大人文化研究所(旧:エルダナービジネス推進室)
過去のレポート一覧

※過去のレポートは、こちらからご覧いただけます。

<http://www.hakuhodo.co.jp/> (博報堂WEBサイト → 「ニュースリリース」 → 「調査レポート」)

※下線は「夫婦」に関するこれまでの調査です。

- ・HOPEレポートⅠ 元気で意欲的な「ニューエルダナー」の登場 (2001.5.21)
- ・HOPEレポートⅡ エルダナー世代から見て公共サービスや高齢者への工夫はどの程度進んでいるのか (広告分野含め) (2001.7.10)
- ・HOPEレポートⅢ エルダナー世代が現在楽しみにしている付き合い・コミュニケーション (2001.8.21)
- ・HOPEレポートⅣ 65歳以上の「親」世代が「子」「孫」世代とどうコミュニケーションしているのか (3世代コミュニケーション) (2001.9.7)
- ・HOPEレポートⅤ エルダナー層のお金に対する意識調査 (2001.11.9)
- ・HOPEレポートⅥ いま、ラジオがエルダナーを動かす (2001.11.29)
- ・HOPEレポートⅦ エルダナー世代の旅は「夫婦二人きりで、贅沢に！」(2002.3.26)
- ・HOPEレポートⅧ 50代男女に聞いた「言われてうれしい言葉」～[50代調査速報] (2002.7.12)
- ・HOPEレポートⅨ 65歳以上のパソコン使用率:2年間で2.7倍、携帯電話使用率は2倍 (2002.10.21)
- ・HOPEレポートⅩ エルダナーの3分の2はお金に苦労しない～「50代・60代のお金に関する意識」 (2003.3.11)
- ・HOPEレポート増刊 「新しい大人文化」創造のヒント(公式)を発表します。開けひま。(2003.10.8)
- ・HOPEレポートⅩⅠ 夫だけが信じる「ウチは大丈夫」～「50代夫婦のパートナー評価」(2003.12.12)
- ・HOPEレポートⅩⅡ 3食きっちり、エルダナーは食べることが楽しみな「食生活優等生」 「エルダナーの食生活調査」(2004.2.19)
- ・HOPEレポートⅩⅢ 「いまは健康」だが、「今後の健康」・「病気のお金」に強い不安。(2004.4.22)
- ・HOPEレポートⅩⅣ 3世代とも「他世代と、もっとコミュニケーション」したい。(2004.7.14)
- ・HOPEレポートⅩⅤ 団塊リサーチ(1)「団塊夫婦の定年意識」に関する調査(2004.9.8)
- ・HOPEレポートⅩⅥ 団塊リサーチ(2)「団塊世代のエンタテイメント消費調査」(2005.4.15)
- ・HOPEレポートⅩⅦ 団塊リサーチ(3)「団塊世代のファッション実態調査」(2005.7.20)
- ・HOPEレポートⅩⅧ HOPEサーベイ2005 最新データ「エルダナーの情報縁とタッチポイント」(2005.9.8)
- ・HOPEレポートⅩⅨ 「団塊世代～定年(引退)後のライフスタイル調査」(2005.10.15)
- ・HOPEレポートⅩⅩ 「団塊男性、定年後に目指す『男のロマン』調査」(2006.5.10)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅠ HOPEサーベイ2006 「団塊世代 人生60年の棚卸し」(2006.11.24)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅡ 「団塊世代 60歳以降の人生設計」(2007.2.20)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅢ 2007年団塊リタイヤ開始(1)「団塊世代 退職金の使い方」(2007.4.26)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅣ 2007年団塊リタイヤ開始(2)「団塊世代 今後の生活と暮らし方」(2007.6.26)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅤ 2007年団塊リタイヤ開始(3)「夫婦の関係」(2007.7.24)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅥ “絶滅!?する中高年”ジーンズフィフティ・インフルエンサーの登場 (2009.2.5)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅦ 団塊夫婦調査(1)「夫婦はやはり“すれ違い”!?」(2009.4.9)
- ・HOPEレポートⅩⅩⅧ 団塊夫婦調査(2)「夫婦関係改善の手立て」(2009.4.20)
- ・新大人研レポートⅠ “新しい大人世代”の人生のとらえ方(2012.1.19)
- ・新大人研レポートⅡ “新しい大人世代”の言われて嬉しい言葉(2012.2.1)
- ・新大人研レポートⅢ “新しい大人世代”のコミュニケーション(2012.4.16)
- ・新大人研レポートⅣ “新しい大人世代”の健康意識(2012.5.31)
- ・新大人研レポートⅤ “新しい大人世代”のお金に関する意識(2012.8.27)
- ・新大人研レポートⅥ “新しい大人世代”の社会意識(2012.9.3)

新しい大人文化研究所は、「夫婦すれ違い」の解決にも取り組んでいます

■「沖縄 大人のふたり旅」

～夫婦旅行のモデルプランを提案し、夫婦関係の改善のきっかけを探ります

新しい大人文化研究所では、夫婦すれ違いの解決策として、「今後配偶者との間で多くとりたい時間」で男女ともに1位となった「夫婦旅行」の活性化に取り組んでいます。

当研究所の調査によると、団塊世代定年後の行きたい旅先は、1位が「北海道」2位が「沖縄」となっています。そこで、年間を通して旅行できる沖縄を舞台に、50～60代を中心とした会員28万人のサイト「趣味人倶楽部」と共同で、財団法人「沖縄観光コンベンションビューロー」が推進する「沖縄 大人のふたり旅」の企画を行っています。

このたび、「沖縄 大人のふたり旅」の企画の一貫として、全国約1000組の夫婦から抽選で選ばれた60代のご夫婦1組を対象に、「南の島の星空ツアー」を実施いたします。

これは、夫婦が再び良きパートナーとなる旅のモデルプランとして企画したものです。この旅行の様子は、「趣味人倶楽部」にて後日報告の予定で、それをご覧になった新しい大人世代の夫婦が、このモデルプランを参考に、夫婦でのふたり旅に出かけていただくことを期待しています。

新しい大人文化研究所は、これからも、「新しい大人世代」の研究・調査およびコンサルティング業務に取り組み、社会に大きなインパクトを持つ「新しい大人世代」が、毎日を生き生きと過ごせることを目指し活動して参ります。

「南の島の星空ツアー」

【日時】 2013年3月4日～3月7日(3泊4日)

【目的地】 沖縄八重山、石垣島

【ツアーの特徴】

①夫から妻への「エスコート」

女性へのエスコートは、日本の男性にとっては不慣れですが、夫婦すれ違い解決のカギである「夫の努力」を目に見える形で表現する手段として、積極的なエスコートを勧めています。レディーファーストでのお車へのご案内、ホテル到着時の車のドアをあけていただくなど、男性に奥様への自発的なエスコートをして頂きます。

②沖縄の星空の下で、お互いに感謝を伝えあう

心地よい夜風に吹かれたホテル前のビーチにて、人気の星空ガイドがつき、星空の見方や、星の説明をします。ロマンティックな雰囲気の中で、一時間ほどおふたりの時間を過ごして頂き、そのなかで男性がリードする形で、お互いに日頃の感謝を伝えて頂きます。

<協力> ANAインターコンチネンタル石垣リゾート

趣味人(しゅみーと)倶楽部「沖縄大人の二人旅」

<http://smcb.jp/cam/okinawa/index.html>

